

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人善光寺大本願福祉会基本理念、川田の宿基本理念及び運営規定に理念を定めている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をリビングに掲示しいつでも確認できるようにしている。ケア会議で理念の確認をしたり、理念に基づきケアプランに作成しケアに取り組んでいる。事業計画にも反映している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を活かした事業計画書及び運営推進会議録を送付し理解を深めていただく工夫をしている。また、地域の代表者による運営推進会議にて理念、運営、ケアについて説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のボランティアの訪問や散歩で出会う隣近所の人々と声を掛け合うなど交流を深めている。また、地区役員や入居者の知人である近隣者の面会時には、立ち寄っていただきお茶などで交流している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の一員として自治会に加入。区費を支払っている。また、総会に出席すると共に地区の作業にも参加している。お祭り、運動会等の行事に参加し交流を深めている。	

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域から協力を得るだけでなく、地域への貢献を事業計画に定めている。その為にも、地域の高齢者の状況を知ると共に職員の能力向上を目標とした研修を実施している。</p>		<p>認知症専門施設として地域の相談受付や情報発信ができるよう、研修や書籍等で知識を深め能力の向上に努める。広報誌など有効に利用していきたい。</p>
<p>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価・外部評価受審の意義についてケア会議にて説明し理解を深めている。事業計画作成時にも指針として参考にしている。又、評価結果を真摯に受け止め改善を図っている。</p>		<p>自分たちの実践の振り返りができ、事業所の求められていることが確認できる。サービスの向上に向けて活用していきたい。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では地域密着型サービスとしてのグループホームの在り方や当事業所の概要、基本理念、運営、ケア内容等について説明し協議を行った。</p>		<p>近隣保育園との交流等、会議の中からの提案を来年度の事業計画に反映できるよう準備を進めている。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の市町村担当者として、地域包括支援センターの職員に委託している。地域の高齢者福祉の状況などの情報交換をしている。運営基準、加算の整備など市担当者に相談をしている。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員の代表が成年後見制度の研修会に参加して知識を深めた。特に必要と思われるケースについては、家族に制度の説明や、活用を促す等している。</p>		<p>研修会の資料の配布で各職員に情報を流した。内部研修を実施し、知識、意識の醸成を図りたい。</p>
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法についてケア会議で報告している。事業所内の虐待については、記録や身体の状態、精神状態の把握に努め、注意を払っている。</p>		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書にて説明を行い理解納得を得ている。また、不安や疑問点については重点的に説明し解決を図っている。長期治療による対処(解約)時には、継続した相談やアドバイスを実施することを説明し、不安の回避に努めている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置し、館内にその旨を掲示している。また、介護あんしん相談員の訪問を受け、入居者の意見を聞いていただいている。また、日々のケアの中から思いを感じ取ったり、話しやすい関係作りに努めている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	遠方などで面会の機会の少ない入居者の家族には月に1回の請求書、領収書の送付時に金銭に関すること、簡単に生活の様子を知らせるなどしている。体調変化や受診後の報告、外出などの行事参加の承諾などは、必要に応じ電話している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口設置要綱を定め(苦情受付窓口設置等)、契約時に文書にて説明している。また、契約書にも同様の説明を記載している。質問時には丁寧な説明を心がけている。第三者評価の家族アンケートの結果を真摯に受け止め、運営に反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議(リーダー会議・ケア会議)や日々の引継ぎ等での意見について問題点・課題を整理し検討している。特に入居者の状態については、職員がもっとも関わりが深いことを尊重し、意見を傾聴することを心がけている。		年内に個人面談を予定している。

グループホーム川田の宿(椿棟)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者、計画作成担当者は柔軟な対応ができるような勤務体制に努めている。(基準以上の体制)また、必要時には勤務調整及び超勤対応を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>会議等で個人の意見や悩みを吸い上げ離職に結びつかないようにしている。また、職員の採用については事前に実習に来てもらう等し、仕事の内容の確認や入居者の反応などを確認している。採用時に施設の特性から長期の就労をお願いしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の研修計画を立て受講を進めている。個人の希望も聞き希望の研修に参加できるよう努めている。日々のケアの様子から、必要と思われる介護事項を確認、指導するようにしている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>個人が所属する機関(介護福祉士会・介護支援専門員協会)での交流、勉強会が主である。全国認知症グループホーム協会に加盟している。近隣のグループホームの会議(善光寺平グループホームねっと)に参加し、情報交換や研修を行っている。</p>		<p>情報交換を図ると共に、相互の施設研修なども図りサービスの向上を図りたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>仕事にやりがいを持てるような係などの役割を担当してもらっている。ストレスがかかりやすい職場であるので人間関係や個人の思いが言いやすい環境を心がけている。</p>		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営・雇用等に対し、相対的に把握しておりアドバイス及び評価を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居決定に当たっては、自宅等を訪問し入居希望者及び家族と面談を実施。その際、身体の状態の他、悩みや希望を聞き取る事で理解を深め入居前後の関わりに反映させている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居申し込みに当たっては、電話での受付の場合は面談を実施し申し込みを受理している。面談では必要な時間を掛け十分な情報を聞き取ると共に、家族の抱えている悩みや不安を受け止める努力をしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態と生活状況等について把握する中で、必要としている支援を見極めアドバイス等をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による自宅訪問時(面談時)、パンフレット等を用いグループホームについての説明を実施している。可能な限り本人の見学を勧め、理解、了解を得る工夫をしている。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気の中、共に暮らしているという意識を入居者、職員共持ち生活している。若い頃の話や戦争の体験等教えていただいたり、調理の事、味見、散歩等での近所交流、行事のおもてなしの相談等相談させていた</p>	<p>日々協力しあいながら、小さなことでも笑い、喜び合えるような関係を継続していきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者の方が楽しんでいたこと等もお伝えし、共有するようにしている。また、入居者の方の不安が強い時は面会をお願いしたり協力をいただ</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>入居申し込みや入居前の面接時の情報や、介護支援専門員などの情報から家族関係を理解し、ケースに応じ支援している。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族や友人等親しくしていた方々との関係が継続できるように支援している。本人の会いたい人や行きたい場所を家族に伝えたり訪問者との関係作りに配慮している。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>食事やお茶会、レクなどを通し、楽しい時間が共有できるように配慮している。認知症や生活の違いによりお互い理解できにくい状況もあるが、職員がそれぞれの人間関係を理解し介在するようにしている。</p>	

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長引き、契約解除された方があったが、退院後の入居施設についての相談を受けたり、入院中の対応など継続的に行った。この度の医療連携加算の説明時にも継続した関わりについて説明を行いご家族と確認している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の意思や希望をアセスメントや日々の生活の中から汲み取る努力をしている。家族の希望も参考にしているが、本人主体の支援を心がけている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族の方にサービス利用や生活歴、生活パターン、好み等のものを伺い、把握に努めている。入居後も本人、家族からの話や聞き取りにも重点を置いている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント、日々の日誌、ケース記録等により総合的な把握に努めている。身体の状態が精神面で大きく作用することを理解し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき入居者本人の状況の把握に努めている。ケアプランの作成に当たっては入居者の希望は思い届くところも大きいですが本人や担当者の意見も聞いて作成している。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1度見直しを行なっている。体調の変化や認知症の進行の大きい方はその度計画の変更を行っている。		体調変化の少ない方の細かなアセスメントとケアプランの立案。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき記録できるようにして、ケアプランの実践、結果などの把握がしやすくなったが、記録の書き方については勉強や統一が必要と感じている。		介護記録の書き方の研修を行い、統一した書き方を心がけたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の方のケースや、急な受診など事業所が対応している。買い物や外出、理容院への送迎等に柔軟な対応を行なうことができるような体制、工夫を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お花見外出やおやつ作り、季節の行事等の際、ボランティアの方にご協力いただいている。消防署の指導による消防訓練を実施している。		民生委員の方の協力で来年度は近隣保育園との交流が図れる様準備をしている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望はないが、入居前に利用していた事業所を訪問したり、ケアマネジャーに訪問していただく等して相談している。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ必要なケースはないが、運営推進委員として会議に参加していただいているため、今後協働していきやすいと思われる。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医及び協力医療機関との関係を密にしながらも医療的支援(上申、受診など)を行なっている。看護職員の採用によりより適切な対応ができるようになったと感じている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の診断、治療が必要なケースについては、家族に専門医の受診を勧めている。必要な場合は受診対応(状態説明・服用後の症状報告・相談等)を行なっている。処方箋薬の支払い、受け取り等の支援も行なっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師とは気軽に相談できる関係ができている。今年度は看護職員が採用でき、身体的変化、異変に対しては危機管理意識に基づき医療機関への相談、受診等がより連携できるようになった。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会や電話にて入院状態の確認やグループホームの契約内容について説明する等情報交換をしている。医師からの病状説明時に差し障りのない場合については同席させていただいている。家族遠方者については、入院対応(洗濯、支払い、整容等)実施している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のケアについて指針を整備し、ご家族に説明している。ケア会議でも指針について説明している。ご家族の意向や本人の希望等かかりつけ医と話し合いを持ちながら全員で意識統一し取り組んでいる。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>更なるかかりつけ医・協力医療機関との関係作りが必要と感じている。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	誕生会や外出等の行事のない時は、その日の天候で散歩や畑に出る、レクをする等入居者の意思を尊重している。寝ていたい時や延食したい時など支障がない範囲で意思を尊重している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容については本人の希望に沿って実施している。男性については理容院へ外出し散髪している。女性は金銭面などから訪問美容がほとんどで、今後検討が必要と感じている。身だしなみについては感想を伝える等意識するような働きかけをしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意向や力に応じて食事の準備・片付け等手伝ってもらっている。自分の役割ややりがいになっている。食事中も手伝っていただいたことに感謝し達成感を味わっている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好については入居時に家族に確認したり、日頃の様子から判断している。喫煙される方はいないが、飲酒については行事時に配慮したり、希望時はできる範囲で対応している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。排便前の不穏な様子が理解できるようになったり、朝食後のトイレ誘導での自然排便を促している。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日及びおおよその入浴時間は決めてあるが、体調によって時間を変更したり、排便を気にする方は最後にする等の配慮をしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を理解し、個々のペースを尊重している。和室でコタツを勧めたり、不安な方には添い寝をしたり安心していただけるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴を把握し、得意な作業を担当していただくようにしている。農作業・縫い物・袋作りなど様々である。外出もそれぞれの方の希望をお聞きしたり、話の中から目的地を決め楽しんでいただいている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が自分の意思でできることは重要なことであると理解している。お金を持つことで混乱する方もあるが、外出時の買い物や交際費等で希望に応じ対応している。又、金庫にお金を預かっていることを説明し、安心していただくこともある。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換や希望に応じた外出、散歩は実施している。食材の買い物に同行し食材を選んだり、希望のものを購入していただいている。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回は希望の場所に外出・外食の機会を設けている。地区の運動会やお祭りも適宜参加している。外出の時には家族に同行の声を掛ける等支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末に年賀状を作り家族に送っている。手紙についてはほとんどないが、電話についてはできる範囲で支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問についてはいつでも受け入れている。時によりソファーや和室でくつろいでいただいたり、居室を利用される方もある。事業所の特性もあり、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は重要事項説明書にも明記し行なわないことにしている。安全確保など緊急、一時的にやむを得ない場合には「身体拘束同意書」に記入し、家族の同意を得ることになっている。ケア会議で確認を行い、言動、薬等を含め検討している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することは人権の侵害であり、弊害であることを理解している。特別な理由がある場合で危険がある時(早朝の職員一人体制など)以外は実施していない。施錠は精神の状態を逆なでる結果になる為、主訴を受け止めるように対応している。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の行動を注視しないよう何気ない雰囲気 で様子や所在の確認をするよう心がけている。 特に不穩の入居者には気配り、目配りにて安全 の配慮をしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組 みをしている	生活や環境の継続を目的としているため、でき る限り普通の生活を送っていただく工夫をしてい る。異食や危険がある場合は状態に応じた対応 をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	心理・身体・環境面でアセスメントを行い問題 点、課題点を確認するようにしている。事故報告 書の検証や検討など会議で行い、周知を図って いる。チェック表・マニュアルなどを整備し防止に 努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的 に行っている	開設時、採用後に応急手当の講習会に参加し ている。急変時のマニュアルを作成したり、危険 の予測される時期(食中毒・正月の誤嚥など)は 会議時に確認するようにしている。		本年度は全員の実施を予定している。定期的な 実施に努めたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	地元の2地区と「災害に関わる協力応援協定を 締結している。年2回行なっている防災訓練には 地区の方に立ち会っていただくなど理解と協力が 得られるように努力している。また、所属の地区 の総会でも区民の皆様へ協力をお願いした。		夜間想定避難訓練や地震時の対応を検討 し、災害時に備えたい。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等 に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対 応策を話し合っている	入居時及び面会時に生活の様子や予想できる 範囲のリスクの説明を行なっている。体調や、精 神面での変化、薬のリスク等も説明している。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>日誌、ケース記録、チェック表などの記録や確認、日々の引き継ぎ等を通し情報を共有し早期発見に努めている。変化が見られた時は看護職員に相談する等早めの対応に心がけている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬状ファイルを見やすいところに用意し、確認できるようにしている。副作用についても確認し、内服後の様子を確認している。服薬のチェック表を利用し、変更、中止等の確認をしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>研修や日常の様子から便秘の及ぼす影響は理解している。食物繊維の多い献立を心がけている。ビール酵母や冷たい牛乳、水分等排便を促しやすい食品の摂取も勧めている。散歩やテレビ体操など運動も促している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔洗浄は一日に1回以上行なうように支援している。食後の拒否が多い入居者には食後に限定せずできる時に促すよう心がけている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の偏りや摂取量の把握に努めている。嗜好を活かした献立や切り方等工夫している。食欲のない入居者には好みの食品を用意したり、食べられる時に食べていただくような支援をしている。</p>	

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修会の参加等で情報収集に努めている。マニュアルを作成し、多発が予想される時期に内容・必要物品等確認し対応できるようにしている。		自分が感染源にならないよう一行為、一手洗いを徹底すると共に職員の健康管理に留意する。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事係を中心に衛生管理を行なっている。調理器具・布巾等毎日消毒している。冷蔵庫の整理や毎日新鮮なものを購入する等し食品の管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は駐車場から見える場所にある。個人の家のように玄関前に花の鉢を置くなど訪問しやすい工夫をしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある手作りの飾りを展示したり、季節の花を飾る等している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチで日光浴をされたり、ソファでテレビを見たり話し込んだりと気に入った場所で過ごしていただいている。和室も利用されている。		

グループホーム川田の宿(椿棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に自分の荷物が置かれることで安心して生活できるという認識に立ち、入居前から環境づくりについて家族と相談している。入居後も生活の変化に伴い生活しやすいよう工夫している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気は行なっている。居室の場所や床暖で暑くなりやすい部屋、暖まりにくい部屋等把握し配慮している。各所に温度計を設置し入居者の方にも相談しながら調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを配置し不安定な方でも歩きやすいように配慮している。ベンチも各所に設置し、一休みに利用する方もある。援助に関しても残存能力を活かすよう配慮している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できるだけ本人のできることはやっていただくようにしている。日常の中でできることできないことを見極め、できない部分を援助できるよう努力している。ケアプランにも立案している。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲に畑があり、畑作りや収穫を希望する入居者が楽しんでいる。ベランダから畑の様子を見たり、日光浴や洗濯物干しに利用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

グループホーム川田の宿(椿棟)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム川田の宿(椿棟)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設から3年が過ぎ、ご近所や地域の方、ボランティア等の関係作りができてきました。声を掛けていただいたり、立ち寄ってくださったりとても嬉しく思っています。周囲に畑が多く農作物で季節を感じながら暮らしています。今年度は予てよりの課題の看護師の配置ができ、終末期のケアについての取り組みを行なっています。日々のケアの中から何か学び取ることができればと思っています。一日一日を大切に過ごしたいと思います。